

水滸伝を知る

漢

たちから学ぶ

第三回

森田 実
(政治評論家)

梁山泊について「学研国語大事典」は、『豪傑や野心家の集まるところ』としています。

「広辞苑」も同じです。政治においても何らかの目的をもつ事業においても、大仕事をしようとする場合、1人だけでは限界があります。同じ志をもつ同志がチームをつくる必要があります。こう



6月5日発売DVD「水滸伝」より

ひと癖もふた癖もある人間はいつの時代にもいる『梁山泊』は永遠に不滅でしょう

したチームづくりや、同（とりで）に幾匹じ野心を持つ者が1カ所もの谷川を飛び越える金に集まり徒党を組むこと色の目玉の猛獣（やはりを「梁山泊」という言葉豪傑のたとえ）どもを集で表します。「水滸伝」がめる』（『成語林』）。生んだ言葉です。

62年前、大学の寮に、「水滸伝」の中に次のよひと癖もふた癖もありそんな記述があります。こうした人間を気取る者が集の記述によって梁山泊のまっぴ「梁山泊」を名乗意味が「野心家・豪傑のっていました。こういう集まる場所」の代名詞にことが好きな人はいつのなったのです。現代語に時代もいます。

訳して引用しましょう。「梁山泊」の名はおそらく起す、幾匹もの額が

白毛の大虫（豪傑のたとえ）を加え、水郷の砦

プロフィール／もりたみほのる
1932年静岡県生まれ。
森田総合研究所代表取締役